

日本経済新聞

夕刊
3月13日
(火曜日)

発行所 日本経済新聞社
東京本社 ☎(03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-1
大阪本社 ☎(06)7639-7111
名古屋支社 ☎(052)243-3311
西 部 支 社 ☎(092)473-3301
電子版アドレス
<http://www.nikkei.com>
購読のお申し込み
☎0120-21-4946
<http://www.nikkei4946.com>

福島 サツマイモ大農場

スイーツポテト店「らぼっぼ」やたこ焼き店「くくる」を運営する白ハト食品工業(大阪府守口市)は福島県楡葉町でサツマイモの大規模生産に乗り出す。投資額は最大60億円。放射線量など土壌の安全性が確認されたほか、原発事故の影響で楡葉町に広がる耕作放棄地などまとまった農地を確保できるため。現地で作業員を採用して被災地の復興を支援する。

白ハト、楡葉に50ヘクタール

白ハト食品は1月に楡葉町に農業生産法人の支所を設立し、耕作放棄地の10haを被災住民などから借りた。4月から苗を植え、10月に収穫する。今後数年で土地を50haまで広げ年間1250トンを産出する。同社が調達するサツマイモの約15%をまかなう予定。加工工場の建

白ハト食品工業 1947年創業。女性の好むものとして江戸時代の川柳に残る「いも・たこ・なんきん(カボチャ)」を事業の軸として拡大を続けてきた。商業施設や駅構内を中心にスイーツポテト店「らぼっぼ」、たこ焼き店「くくる」など全国で計約100店運営する。2016年度のグループ売上高は120億円。10年には中国・上海万博にたこ焼き店を出店した。

白ハト食品は大学いもでシェア8割を握る(茨城県行方市の自社農場)



菓子原料確保 復興後押し

70倍の規模。「東日本大震災以降、楡葉町では多くの住民が離れたままで、町と連携することのできた(永尾俊一社長)土地を借りるにあたって、白ハト食品は放射線の線量や土壌汚染を徹底調査して、安全性に問題ないことを確認した。3年間数千人の女性社員を現地に送り込むほか、100人超の現地採用を目指す。生産したサツマイモは「らぼっぼ」の商品の原料に使うほか、プライベートブランド(PB)商品にも活用する。楡葉町は2015年9月に原発事故の避難指示が解除されたものの、依然として人口は震災前を下回る。ただ16年にコメ生産を本格的に再開したほか、今年7月にはサッカー練習施設「Jヴィレッジ」の一部再開される。白ハト食品は「にぎわいのあ

る町づくりで経営と復興を両立させたい」(永尾社長)という。白ハト食品はサツマイモ菓子大手で大学いもではシェア8割を握る。もう一つの柱である、たこ焼きの「くくる」は、タコの価格が9年で2倍弱に上昇したため、採算面から出店を抑えている。JAと組んで茨城県行方市でサツマイモを生産しているが、「らぼっぼ」の事業を拡大するうえで、さらに生産を拡大する必要があった。